

朝日新聞

「こんな時だからこそ」勇気を持って交流 日中ユースフォーラム開く



中国人の学生たちが日中交流への思いをつづる「中国人の日本語作文コンクール」と、日本人が中国での体験や思い出をつづるコンクール「忘れられない中国滞在エピソード」(共に日本橋報社主催)の受賞者が意見を交わす「第8回日中ユースフォーラム」が6日、日中両国などをオンラインでつないで開催された。

今回のテーマは「推し活」で生まれた新しい日中交流。大連外国語大学の朱恒宇さん(22)は、ネット動画へのコメントが流れるように大量に投稿されることを指す「彈幕」という言葉を中国語に翻訳し、日本語と表現の違いに個々人共通の感性に気付いたりした経験を語った。朱さんは「言葉の違いを壁ではなく、窓として捉えることの大切さを学んだ」として、「違いを尊重し、好奇心を持って向き合えば、むしろ交流はより豊かなことになる。これは中日間の交流にも言えるのではないかと話した。

北京外国語大学に留学している高橋裕太さん(25)は、「パンダが大好きで、パンダをきっかけに初対面の中国人ともすぐに打ち解けることがある」というエピソードを紹介。自身が暮らす中国で「ニュースだけではわからない人と人の温かなつながりが生まれている」とし、「小さな日常の積み重ねが、長い目で見れば日中関係の豊かな土台になる」と考えていると話した。

日中関係は緊張が続いているが、日中双方の参加者からは「こういう時だからこそ、民間で交流することが大切だ」との声が相次いだ。

日本橋報社代表の段躍中さんによると、フォーラムに参加を予定していた中国側の大学生の中には、学校の許可を得られず欠席した人もいたという。段さんは「両国の関係が厳しいにもかかわらず、若者たちは勇気を持って参加してくれた。どんなに困難なときでも次の世代の人たちの交流が届けば、日中関係に希望はあると思う」と話した。

社説 中日新聞 東京新聞 2025年3月16日

日中文化交流「民で官を促せ」 週のはじめに考える

中国人学生を対象にした「日本語作文コンクール」の最優秀賞受賞者による報告会が東京都内で開かれ、2025年3月16日、朝日新聞、中日新聞、東京新聞に掲載された。

中国人学生を対象にした「日本語作文コンクール」の最優秀賞受賞者による報告会が東京都内で開かれ、2025年3月16日、朝日新聞、中日新聞、東京新聞に掲載された。

中国人学生を対象にした「日本語作文コンクール」の最優秀賞受賞者による報告会が東京都内で開かれ、2025年3月16日、朝日新聞、中日新聞、東京新聞に掲載された。

中国人学生を対象にした「日本語作文コンクール」の最優秀賞受賞者による報告会が東京都内で開かれ、2025年3月16日、朝日新聞、中日新聞、東京新聞に掲載された。

中国人学生を対象にした「日本語作文コンクール」の最優秀賞受賞者による報告会が東京都内で開かれ、2025年3月16日、朝日新聞、中日新聞、東京新聞に掲載された。

中国人学生を対象にした「日本語作文コンクール」の最優秀賞受賞者による報告会が東京都内で開かれ、2025年3月16日、朝日新聞、中日新聞、東京新聞に掲載された。

中国人学生を対象にした「日本語作文コンクール」の最優秀賞受賞者による報告会が東京都内で開かれ、2025年3月16日、朝日新聞、中日新聞、東京新聞に掲載された。

中国人学生を対象にした「日本語作文コンクール」の最優秀賞受賞者による報告会が東京都内で開かれ、2025年3月16日、朝日新聞、中日新聞、東京新聞に掲載された。

中国人学生を対象にした「日本語作文コンクール」の最優秀賞受賞者による報告会が東京都内で開かれ、2025年3月16日、朝日新聞、中日新聞、東京新聞に掲載された。

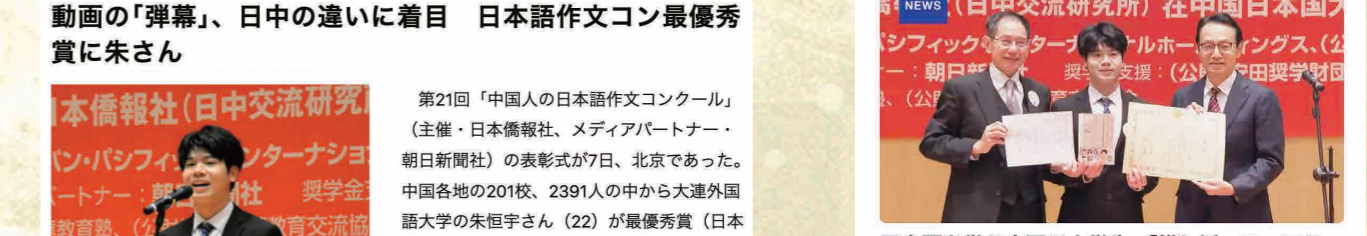
中国人学生を対象にした「日本語作文コンクール」の最優秀賞受賞者による報告会が東京都内で開かれ、2025年3月16日、朝日新聞、中日新聞、東京新聞に掲載された。

中国人学生を対象にした「日本語作文コンクール」の最優秀賞受賞者による報告会が東京都内で開かれ、2025年3月16日、朝日新聞、中日新聞、東京新聞に掲載された。

中国人学生を対象にした「日本語作文コンクール」の最優秀賞受賞者による報告会が東京都内で開かれ、2025年3月16日、朝日新聞、中日新聞、東京新聞に掲載された。



朝日新聞 2025年11月8日



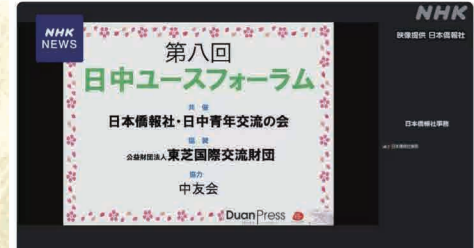
動画の「弾幕」、日中の違いに着目 日本語作文コン最優秀賞に朱さん

第21回「中国人の日本語作文コンクール」(主催・日本橋報社、メディアパートナー・朝日新聞社)の表彰式が7日、北京であった。中国各地の201校、2391人の中から大連外国語大学の朱恒宇さん(22)が最優秀賞(日本大使賞)に輝いた。

【昨年の様子】AIは「完璧な友」だけども 中国人の日本語作文コン、20回の節目

日本語を学ぶ中国の大学生「推し活」テーマに作文コンクール

日本語を学ぶ中国の大学生による作文コンクールの表彰式が北京で行われ、好きなアーティストなどを応援する「推し活」をテーマにした作文で入賞した学生たちが体験もつづいて日中間の交流の意義を語りました。



NHK NEWS 2025年12月7日

作文コンクールで入賞した日中の若者などがオンラインで交流

いよいよ「台湾有事」をめぐる高市総理大臣の国会答弁に中国が反発し、日中関係が冷え込むなか、互いの国での体験などをつづった作文コンクールで入賞した日中の若者などが、オンラインで交流するイベントが行われました。

「日中ユースフォーラム」は、日本語を学ぶ中国大学生の作文や、日本人が中国に滞在した際の体験記のコンクールを主催する出版社が6日、オンラインで開き、受賞者など60人余りが参加しました。

このなかで中国の復旦大学の張晴さん(22)は、日本に交換留学して多くの友人ができたことに触れ「両国の関係は厳しいが、民間交流こそが友好を支える重要な力になると確信している。両国の間の懸け橋になれるよう努力していきたい」と話していました。



日本側からはモワナ前田未希さんが、中国で暮らした体験を動画で配信する活動をしていることに触れ「中国に行く前は不安だったが、住んでみると生活は便利で、3人の子どもにも温かな声をかけてもらった。リアルな中国の様子を届けたい」と話していました。



主催した出版社の段躍中さんは「政治が対立しても民間交流は続けていくべきで、若い世代の交流の場を大人として提供していきたい。今の両国関係は冬だが、春が来ることを期待したい」と話していました。

2025 メディア報道ピックアップ



中国人日語作文大赛获奖者访日促进中日交流

人民网东京3月1日电(记者朱明娟)由日本侨报社主办的第20届中国人日語作文大赛获奖者代表团一行六人，近日完成为期一周的东京访问。



本代表团由六位获奖者组成，其中包括荣获日本大使奖的的大连外国语大学林若菲，以及一等奖获得者：中国人民大学池維林、大連外国語大学張宇、復旦大學徐思琪、吉林大學孫月朋和天津外國語大學林曉。訪日期間，他們與日本社會各界進行了深入交流，展現了新时代中國青年的風采。

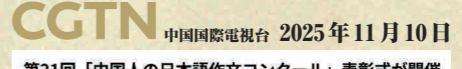


林若菲和張宇同學一行合影。日本橋報社提供



「四葉のクローバーを持ち受けたい」運気UP

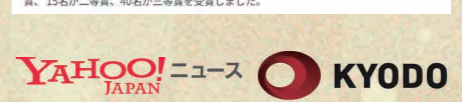
えて、24年には84万人を超えました。日本国籍の取得者も、この3年で約11万人に上ります。大勢の中国出身者が隣人として暮らすようになり、日中関係は厳しい状況が続いています。



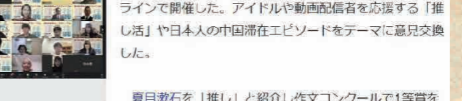
第21回「中国人の日本語作文コンクール」表彰式が開催



中国人の学生による日本語作文コンクールの表彰式が11月7日北京の在日中国大使館で開催されました。作文は「推し活と日中交流」をテーマに、中国の201校2391人の中から応募があり、日本大使賞を大連外国語大学の朱恒宇さんが受賞したほか、5名が一等賞、15名が二等賞、40名が三等賞を受賞しました。



日中若者、オンライン交流 「民間が友好支える」



【北京共同】日中関係の書評を出版する日本橋報社などは6日、「中国人の日本語作文コンクール」の受賞者ら日中両国の若者が交流する「日中ユースフォーラム」をオンラインで開催した。アイドルや動画配信者を応援する「推し活」や日本人の中国滞在エピソードをテーマに意見交換した。

夏目漱石を「推し」と紹介し作文コンクールで1等賞を受賞した中国上海市の復旦大4年、張晴さんは「今は日中関係がちょっと厳しいが、民間交流こそ友好を支える力になる」と訴えた。語学力を認め、両国の架け橋になるよう努力していきたいと話した。

読書新聞 2025年11月26日

中国滞在記 受賞作決まる



日本人が中国に滞在した際に感じた魅力などをつづる作文・漫画コンクール「忘れられない中国滞在エピソード」(読売新聞社など後援)の受賞作品が決まった。最優秀の中国大使賞には、京都市下京区のユーザー・モワナ前田未希さん(39)＝写真、日本橋報社提供＝の作文「レンズ越しに見えた『本当の中国』」が選ばれた。

作品では、中国・広州で生活した経験やユーザーとして発信したり、現地の人と交流したりした思い出を紹介。「国と国の間に壁があっても、人と人の間には、笑顔と共感、敬意と優しさがある」と記した。

コンクールは日中関係の書籍を出版する「日本橋報社」(東京都豊島区)が主催した。

今年、日本橋報社は創立30周年を迎えます。引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。 段躍中 社員一同